

運動会予行

22日に運動会予行を行いました。

入退場の確認が主でしたが、いくつかのレースや団体競技は実際に取り組みました。

選手の入退場ばかりではなく、運営をするための各係の業務の確認の日でもありました。自分の立ち位置、タイミングなどを考え、生徒同士で、さらに合理的に任務を全うする方法など声を掛け合っている姿を見ることができました。



まずは、本番さながらの短距離走。個人の力が試される競技です。

1000m、1500mの長距離走は、一周のみでしたが、係から残りの周回が示されました。トラックを回り続けるこの競技にとって大切な表示です。競技者だけでは運動会は成立しないのです。



続いてトラック内側にて二人三脚がスタートしました。個の力だけでは、スピードは上がりません。肩の組み方、歩幅など工夫が必要です。ビブスを着用して斜め後ろを走っている生徒は審判です。どのコンビも公平にレースに取り組むように、厳しい視線を注ぎながら追隨していました。



全校で取り組むダンスにも注目したいところ。まだまだ恥ずかしさが残っている感じがしました。圧倒的に徹底的に説得力ある表現を魅せてほしい!!!チーム教員も踊っています。



結びにご紹介するのは、大縄跳びです。「チームジャンプ」などと称して、「クラス色」を前面に押し出す学校もあります。小生はかつて運動会となると担任として最も力を入れた競技です。個の力に左右されず、クラスとしてどのように取り組んできたか試されると考えていました。今回の予行において、生徒間の様々なやり取りが見られました。「もっと早く回して」「声だそう」「広がってきたから詰めて」「少し



右に寄って」というような指示や提案の声。「まだまだいけるよ」「がんばろう」「いいよ」という励ましの声「ありがとう」「オー」「オッケー」仲間の問い合わせに対する返答の声。大縄を片付ける場面で、回し手役の生徒が、もう一人の回し手にグリップの部分を投げ返すと地面にバウンドしました。その時「大切に扱えよ!!」と横に並ぶ生徒から声が出たのです。小生は感動しました。そうやってクラスがひとつになりチームとなっていく。生徒の成長を見る事ができる素敵なものでした。成長へ向かった声、表情、汗、涙はとっても美しい。大縄が創り出すこのドラマは、もはや、

『大縄と美』と言っても過言ではありません。